

「生物多様性のための30by30アライアンス」および、 「経団連生物多様性宣言イニシアチブ」に参加

愛知製鋼株式会社（代表取締役社長：後藤尚英）は、2030年ビジョンに定める目標「持続可能な地球環境への貢献」に向け、カーボンニュートラルや生物多様性保全の活動に取り組んでいます。

その一環として、この度、「生物多様性のための30by30アライアンス^{※1}」および「経団連生物多様性宣言イニシアチブ^{※2}」に新たに参加したことをお伝えします。

当社は、2012年より、知多半島生態系ネットワーク協議会事業「命をつなぐPROJECT^{※3}」に参画し、社有地の中新田緑地での「カブトムシのすむ森づくり」事業を通じて、生物多様性保全に取り組んできました。専門家の指導による緑地管理、生物の生息地の創出、社員や学生、地域の方々など多様な主体が参加するモニタリングなど、緑地整備計画を推進し、地域と連携した自然共生を進めています。中新田緑地を含む「知多半島グリーンベルト」は、環境省の定める「自然共生サイト」にも認定されました。

今年には、中新田緑地に約6000本の植樹と、環境学習に活用できるテラス等の設置工事を実施し、更に魅力ある緑地へと造成する予定です。

当社は今後とも、従業員とご家族、地域の皆さまと連携し、様々な自然共生活動を通じて、地球環境保全活動を加速していきます。



30by30のロゴ



中新田緑地の造成イメージ模型

- ※1 2021年のG7サミットで約束された、2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復させる（ネイチャーポジティブ）というゴールに向け、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標。
- ※2 「経団連生物多様性宣言・行動指針（改定版）」を構成する7項目のうち複数の項目に取り組む、あるいは全体の趣旨に賛同する企業・団体
- ※3 愛知県の知多半島臨海部等に点在する企業緑地や公共緑地を繋ぐことによって、生物多様性の向上と生態系ネットワークの形成を目指すプロジェクト。連携企業12社と行政、大学生、専門家、NPO等が連携して活動